

賛美はクリスチャンの呼吸です

路傍伝道していましたが、高校生と一緒に賛美をしてくれました。子どもから大人まで歌を歌ったり踊ったりするのは楽しいです。今回愛知県豊田市の教会で賛美集会でコロナ感染が発生しました。息をするのは死活問題のように、クリスチャンが賛美は呼吸のようなものです。マスク、手洗い、密を避け、検温を守り集会が再開できることを祈ります。

さくらさんありがとう

昨年はコロナで見向きもされなかった桜が「今年は私を見てください。」とほほ笑んでいます。マスクを不自然であると、だれも感じなくなりました。「見よ、それは非常に良かった。」(創世記一ノ三一)と神様はお造りになられた世界をみてお喜びになられました。なのに、神様がマスクをしなければ生きられないようにされたのでしょうか。国と国の戦争は神様の命令でしょうか。米国でアジア系の人々を迫害されるのは神様のせいでしょうか。早い者勝ちと我先に宇宙開発を競うのは神様なのでしょうか。「あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中から戦う欲望から出て来るではありませんか。あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。求めて得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。」(ヤコブ四ノ一~三)

開け染めた新年

二〇二一年は激動の中に明けました。新年より寒波到来してコロナと二重に身に沁みます。社会も教会も集まることに神経質になっています。コロナは若い人に増えている傾向です。おそらく、若者は感染してもダメージが少ないので、いたるところに感染が広がるのかもれません。こういう時に高齢者の多い私たちの教会は若者の参加を求めています。コロナ対策をして安心して集会のできるようにしなければなりません。今の時代にこそ人と人の交流が大切なのに分断されるなら、余計に世界は混乱します。私たちの教会は定期集会は休まず続けています。しかし、今までしていた二階食堂の食事は避けて、会堂で軽食をして、感染のリスクを減らしています。ゆえに、まず教会に来るなら、神様との交わりを最優先し、牧師の説教で御言葉をいただき、恵まれるようにしなければなりません。今、教会で礼拝、祈祷会に出席できるのは奇跡であると思わねばなりません。いつ終息するのか、めどの立たない状況です。世界的な試練の中にクリスチャンの使命はなんであるか。神様の御心は何かを祈り求め、まず、神様と同じ聖なる者と作り変えていただき、神様の御業が聖とされた私たちを通して世に表されなければなりません。教会が容易ならざる事態に立たされています。迫害もないのかかわらず、コロナの為に礼拝出席者が激少し、また、集会を自宅でインターネット配信で行う教会が増えつつあります。今まで通りの集会を死守することが信仰の基本です。しかし、コロナにより出席することをとどめています。高齢者クリスチャンの御家族は交通機関を利用して礼拝出席をする親御さんの感染を心配して礼拝を控えるようにしています。こんなことはかつてなかったことです。再

度の非常事態宣言がなされようとする今こそ、祈りと信仰をもって、集会を死守しましょう。「わざわざは あなたに降りかからず 疫病もあなたの天幕に近づかない。主が あなたのために御使いたちに命じて あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。」(詩篇九一ノ一〇, 一一)

コロナは無くならない

オリンピックがコロナの為に開催ができるかどうかと騒いでいます。「人はパンだけでいきるのではなく、神の言葉によっていきます。」オリンピックが中止になると経済は停滞しますが、人間を感染より守れます。コロナ感染防止を最重要課題にしないないと、オリンピックどころか、日本の存続が危ぶまれます。一番大事なものはオリンピックですか。人の生命ですか。優先順位を決めなければなりません。人の生命が第一なら、生命を生かす神の言葉を優先的に聞かねばなりません。

コロナという嵐の中の教会

突然の嵐で船は今にも転覆しそうです。しかし、イエス様は船の中で眠っていました。全世界はコロナという大嵐で今にも転覆しそうです。アメリカも日本もリーマンショック以来の景気の落ち込みです。失業者は路上に溢れ、オリンピックどころではない状態です。キリスト教会も感染拡大防止のために礼拝は中止。余力のある教会はリモートで礼拝を発信していますが、小さな教会はコロナに怯えながら祈りつつ礼拝を続けています。戦前は結核は死病と言われて、感染すると助かりませんでした。しかし、コロナは感染しても自覚症状がない人もいますので、感染が広がりやすいのです。ゆえに、感染防止として手洗い、うがいをこまめに行い、人ごみをさけて、疲労をためず、規則正しい生活をこころがけましょう。イエス様は御言葉により私たちの心の嵐を鎮め、コロナの中においても希望と感謝を与えてくださいます。国に対して要望するのはPCR検査を手軽にできるようにし、早くワクチン接種が行えるようにまた、コロナで感染して自宅療養を止む無くされる方に簡易式の酸素測定器を貸与するようお願いいたします。

七年の豊作後、七年の飢饉

今から四千年前にエジプトで奴隷であったヘブル人のヨセフが王様の夢を解き明かしました。それはエジプトに七年間の豊作の後、七年の飢饉が訪れという意味でした。ヨセフの夢の解き明かしと対策に驚いた王は、早速奴隷のヨセフを国のナンバーツーに抜擢して国の政策を任せました。聖書では七は完全数です。日本は戦後七〇年平和と繁栄を謳歌しました。しかし、突然コロナが世界的に蔓延してオリンピックは延期、それに伴い、世界から三千万の観光客を見越して計画していた事業もすべて破綻しました。すなわち七年の飢饉が今まさに始まったのです。オリンピックがどうのこうのというような安易な計画では国は成り立って行かない状況に追い込まれているのです。しかし、そうだからといって絶望する必要はありません。まだ回復のチャンスがあります。今まで長く拒んでいた聖書の中に記されている我らの罪の為に十字架に架けられ三日目によみがえられた主イエス様を信じて罪を悔い改め、罪の赦しと永遠の生命を与えられ、神様を信じて行くなら、試

練の中にも神様は祝福と平安を与えて下さいます。

一年前のコロナウイルス

一年前に比べて教会の献金は約二割減少しました。これもコロナの影響であるのでしょう。しかし、昨年のクリスマスに洗礼者が与えられました。これまで、本部の教会は感染者もなく集会を続けられたことは神様の恵みです。コロナの一年を振り返ると、最初緊急事態宣言が出され、なにがなんだかわかりませんでした。昔、戦場で部隊が毎朝、詩篇九一篇を暗唱して、激戦地でありながら一人の戦死者もなかったと聞かされ、早速「詩篇九一篇「わざわいは、あなたに降りかからず、疫病も、あなたの天幕に近づかない。」(一〇節)を毛筆で書いて、信者や地方の教会関係者に励ましのお手紙をお送りしました。町は車も人もなくなり、ゴーストタウンの異様さを感じました。コロナによりオリンピックが延期。アベノマスクが配布され、教会も集会を中止して大きい教会はテレビ礼拝になりました。町ではマスクや消毒液が品薄状態でマスク一枚が何千円もしていました。学校も休み。会社は休めませんので、自宅でできる仕事はパソコンでするようになりました。スーパーだけが満員でした。私も外出自粛で夕方に散歩に行き、川に入り、ゴミ拾いをしましたが、これではだめだと思い、マスクをして教会の周辺から一軒ずつ、戸別訪問開拓を再開するようになりました。昨年のクリスマスコンサートにその地域から一人の婦人が参加されました。また、今も続いて数名の方々を定期的に訪問して伝道しています。信者訪問においても、文書伝道、すなわち自筆で手紙を書いて教会との絆を保つようにしています。数名の方とは手紙のやりとりで聖書研究をしています。一人の姉妹とは詩篇、箴言を学び、もう一人はサムエル第一の学びを始めようとしています。さらに現代的にテレビ礼拝、具体的にスカイプという無料のパソコンの画面で顔を見て声を聞いて各集会をします。やがて、パソコン、スマートフォンを持っておられる方が集会、聖書研究に画面と一緒に集会に参加していただきたいと願っています。世の中も一年後の今はやっと、ワクチン接種が医療従事者から始まりました。東京の一日の感染者も三百人台に収まりつつあります。しかし、一時に比べて少なくなっただけで、油断したらすぐに増えるのです。反面、コロナから人を守るべき医療機関がコロナの感染者が病院に来ることを恐れて厄介者のように思えて仕方がありません、そしてコロナ患者を扱うコロナ医療従事者やその家族を差別する風潮が静かに蔓延しています。これではコロナは絶滅しません。反面台湾は国中で何百人と桁違いの感染者の少なさです、しかも感染者がでたら、すぐに患者も医療従事者も社会も隠さず感染者を治療します。それに反してわが国では感染すると大半が自宅療養です。だれからも無視され、最悪の場合は容態が急変して死亡する方が起こっています。自分さえ良ければ他人はどうでもよいと言う。神の愛の欠如を感じます。

教会が容易ならざる事態に立たされています

迫害もないのかかわらず、コロナの為に礼拝出席者が三分の一になり、また、集会を映像で写して信者は自宅で見るという状況になりつつあります。集会を死守することが信仰の基本です。しかし、今は出席することをとどめています。高齢者クリスチャンの家族

も、交通機関を利用して礼拝出席をする家族の感染の危険を考えて礼拝を控えるように勧めます。こんなことはかつてなかったことです。再度の非常事態宣言がなされようとする今こそ、祈りと信仰をもって、集会を死守しましょう。「わざわいは あなたに降りかからず 疫病もの天幕に近づかない。主が あなたのために御使いたちに命じて あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。」(詩篇九一ノ一〇, 一一)